



伊丹市幼児教育ビジョン(案)

愛情・自然・ことばの文化がつなぐ…ふれ愛でつながる幼児教育

はじめに

本市では、これまで、公私立幼稚園や保育所、認定こども園などが、それぞれの教育理念のもとに幼児教育を推進してまいりました。

国においては、平成29年3月に幼児期における教育・保育の指針となる幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領が改訂され、幼児教育に関する記載がおおむね共通化されました。これからの幼児教育は、施設の種別を超えて、ともに日本の幼児教育を推進していくこととなります。

この先の社会は、グローバル化や、AI（人工知能）、IoT（物のインターネット）といったテクノロジーが想像を超えて進展するなど、目まぐるしい速さで変化し続けることは間違いありません。

子どもたちが、このような時代をたくましく生き抜いていくためには、基本となる「知識や技能」、「自ら考える力や判断力、コミュニケーション力」、「学び続ける意欲」などを培う必要があります。幼稚園、保育所、認定こども園など、どの施設においても、これらの「資質や能力」を育てていかなければなりません。

このようなことから、本市では、伊丹市としての幼児教育理念と育てたいこども像を定める「伊丹市幼児教育ビジョン」を策定します。

本市ならではの自然や文化をいかした幼児教育ビジョンのもと、一人一人の子どもが自らの夢の実現に向かって、将来を切り開いていける力を身に付けることができるよう、公私立の幼稚園、保育所、認定こども園、学校関係者、保護者、地域とともに、幼児教育の充実に取り組んでまいります。

平成30年（2018年）3月 伊丹市教育委員会

目 次

- 1 幼児教育の基本理念と育てたい子ども像
 - (1) 幼児教育において大切にしたいこと3つ
 - (2) 育てたい子ども像と育てたい力

- 2 遊びを通して学ぶ 子どもたち

- 3 質の高い幼児教育をめざして
 - (1) 豊かな遊びと体験の充実
 - (2) 幼児教育から小学校教育への接続
 - (3) 一人一人の発達に応じた個別支援の充実
 - (4) 保育者の資質向上
 - (5) 保護者支援
 - (6) 地域とのつながり

- 4 参考資料
 - (1) 幼児期に育みたい資質・能力3つと
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10
 - (2) 伊丹市の現状（人口、基礎児童数）
 - (3) 乳幼児の保育状況
 - (4) 伊丹市幼児教育ビジョン策定策定の経過
 - (5) 幼児教育ビジョンの位置づけと計画期間
 - (6) 伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会委員名簿

1 幼児教育の基本理念と育てたい子ども像

伊丹市は、豊かな**ふれ愛**でつながる幼児教育を目指します。

豊かな**ふれ愛**を土台に、まち全体で乳幼児期の子どもたちの育ちと学びを支えます。

いきいき たくましく みらいへ

誰もがわかりやすい
キャッチフレーズ

～豊かな**ふれ愛**でつながる幼児教育～

事務局案ですので、
他にご意見いただき
たいです

(1) 幼児教育において大切にしたいこと3つ

乳幼児期の子どもを育むとき、大切にしたいことが3つあります。それは、「**愛情**」・「**自然**」・「**ことば**」です。この3つは、伊丹市の幼児教育を考えると、特に大切にしたいものです。

「**愛情**」を土台にしながら、温かなまなざしで子どもの成長を支え、伊丹の「**自然**」に触れて「**自然**」を好きになり、「**自然**」を大事にする心を育みます。

そして、伊丹市はこれまでも「**ことば**と読書を大切に

する教育」を進めてきました。乳幼児期の子どもたちに、温かく、美しく、豊かな「**ことば**」に包まれる環境、「**ことば**」の豊かな育ちを支えます。

ことば

豊かで美しい言葉と表現との**ふれ愛**

自然

身近で豊かな自然と文化の**ふれ愛**

愛情

尊い生命と異なる個性との**ふれ愛**

愛情

尊い生命と異なる個性とのふれ愛

「まちづくりは人づくりから」……。伊丹市はこれまでも、「お互いさま」で成り立つ人と人とのつながりを大切に、まちづくりを進めてきました。

伊丹市に住む人、0歳児の赤ちゃんからお年寄りまで、一人一人が大切にされる、そんなまちでありたいと願います。

人は、愛されて育つことで自分を大切にすることができ、周りの人やものを大切にし、愛する心が育ちます。

言葉でのやり取りができない乳児は、泣くなどの働きかけに、周りの大人が温かく応答してくれる、不安や欲求不満があるとき、常にしがみつくことができる大人がいる、その繰り返しの中で、人への信頼感を身に付けていきます。

幼児教育を考えると、まずは、「愛情」を根っこにすえ、一人一人の子どもが周りの人に愛されて育つことを大切にします。一人一人の個性はかけがえのないもので、大切にされなければいけません。

そして、子どもは様々な個性に出会い、かかわり、つながり、時にはぶつかり、そうしながら、人を好きになり、人とはよいものだということを知り、多様性を学びます。

愛情を受けた伊丹の子どもが、友だち、周りの人はもちろんのこと、自分の持ち物、幼稚園や保育所、こども園で使う道具、植物や虫、動物などの身近な自然など、身の回りのものすべてを大切に思い、すべてのものに愛情が注げるようになることを願います。

もう一つ大切なことは、子どもにかかわる全ての大人が、安心して目の前の子どもに愛情を注ぐことができる環境をつくることです。

「お互いさま」と言って、できる人ができるときに、できることをして、大人同士がつながり、地域で支え、まち全体で「愛情」を根っこに据え、乳幼児期の子どもを育みます。

自然

身近で豊かな自然と文化とのふれ愛

伊丹市は、都会にありながら自然に恵まれています。昆陽池公園をはじめとする数々の公園、緑地、たくさんの虫に出会い、学べる昆虫館など、自然と共生関係にあると言えます。

幼児期は人生の中で一番心が動いている時期であり、自然の面白さ、美しさ、不思議さなどに直接触れ、心と体を動かす経験はなくてはならないものです。

子どもにとって、自然が身近にあり、見たり触れたり、愛着をもって集めたり、時には生命あるものの世話をしたりする経験。

春の植物や木々の芽、真夏の暑い日差し、風に舞い散る色づいた落ち葉、水たまりに薄く張った氷など、日々の生活の中で季節の変化を感じる場面との出会い。

そのような自然と出会い、感動するような体験は、自然に対する尊敬、親しみ、愛情などを育むとともに、子どもの心は安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われます。そして、季節により自然や人間の生活に変化があることに気づきます。

伊丹市は、そのような子どもと「自然」とのふれ愛を大切にします。

時には、伊丹市の財産である豊かな自然を活かし、日々の生活の中では、子どもがいつでも自然を身近に感じられるようにするなど、「自然」とのかかわりを大切にし、子どもたちに豊かな心を育みます。

ことば

豊かで美しいことばと表現とのふれ愛

平成18年度、「『読む・書く・話す・聞く』ことば文化都市伊丹特区」の設定を受け、豊かな表現力、そして、国際社会、情報社会に対応できる優れたコミュニケーション能力を育むため、「ことばと読書を大切にする」、伊丹ならではの特色ある教育を推進してきました。

「ことば」を育むとは、「自分の思っていることを表現できること」や、「他者との会話や、やりとりの中で新しい考えに気づく」ことが大切です。

「ことば」を教え込むのではなく、様々な体験や人とのやりとりの中で、広がりや深みをもたせ、そのことで「ことば」は生き、育まれ、やがて小学校以降の生活や学習においても土台となるものです。

乳幼児期の子どもは「ことば」を話せない時から、身近な人との温かいかわりの中で、コミュニケーションの基礎を育み、豊かな体験を積み重ねる中で、「ことば」を豊かに育んでいきます。

乳児期の子どもに、語りかけたり、歌いかけたりすると、語りかけ自体は一方通行に見えますが、子どもは笑ったり、目で追ったり、指をさしたり、いろいろな姿が見られます。

伊丹市ではこれまでも「ことば」を大切にした教育を進めてきました。

だからこそ、0歳の赤ちゃんから、豊かで美しく、温かな「ことば」とのふれ愛を大切にします。

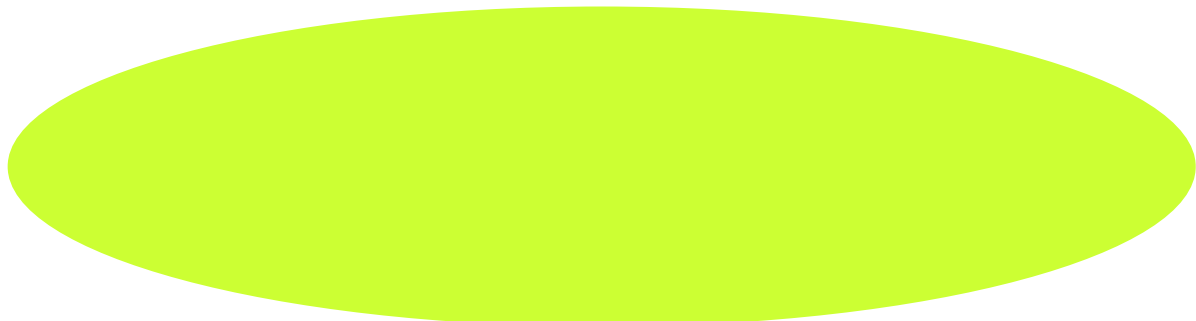
時には、絵本や紙芝居、温かな語りの素話などで、想像する楽しさを育みます。

時には、子どもの言葉にならない心の声を、表情や身振り手振りから聴き取り、安心して自分の思いを表現できる関係や場、夢中になり没頭できる活動と場をつくります。

子どもの心が動き、子ども自身が自ら「ことば」を発したくなるような「ことば」の育みを大切にします。

(2) 育てたい子ども像と育てたい力

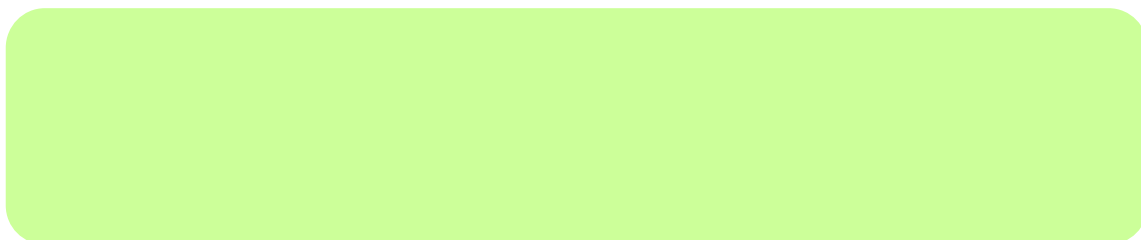
育てたい子ども像



これまでのご意見

育てたい力

- 自己肯定感 ○相手を肯定する力 ○自尊感情 ○多様性の理解
- 一人一人が自分の生活をしていく糧をつくる力
- 一生を見通した力 ○自分で価値を作り出していく力



伊丹の子どもたちが、愛情に支えられ、豊かな自然や温かな言葉にふれ、人とのつながりの中で、○○な力を育み、○○子どもを育成します。

そして、子どもたちが将来大人になったとき、一人一人が自分の生活を自分でつくりだし、伊丹で育ったことが幸せな人生をおくるための「原動力」になることを願います。

2 遊びを通して学ぶ 子どもたち

遊びを通して学ぶ

幼児期においては、

体を動かす楽しさや、自分の力で行動することの充実感をもつこと、身近な人に親しみ、信頼感を持ったり友達と力を合わせたりすること、身近な環境に自らかかわり、興味関心を持ったり、発見や不思議を感じたり、自分の気持ちを言葉で表現したり、絵本や物語に親しみ想像力を膨らませたり、様々なことを経験してほしいと願います。

これらは、一つずつの項目を取り出して身に付けるものではなく、遊びや生活を通して育まれるものです。

子どもにとっての遊びとは、単なる暇つぶしや休憩ではありません。遊びながら、体験を通しながら、生きてく上で必要な力を身に付けていきます。

だからこそ、一人一人の子どもが、好きなことややりたいことがあり、集中したり、没頭したりして真剣に遊ぶことが大切です。

何よりも大切なことは、

子どもが、自分で、好きなことや、やりたいことを見つけること、その楽しさや喜び、悔しさなどを共感できる仲間がいること、その姿を温かいまなざしで見守る大人がいること、子どもにとって、かかわりたくなる環境があること・・・。

子どもの「遊び」は「学び」であり、「遊びの質」は「学びの質」そのものです。

「遊びを通して学ぶ」ということを、もう少し具体的に説明があるのか。

子どもの姿から・・・コラム

(例) 色水あそびや泥団子づくり、友達とのごっこ遊びなど、子どもが夢中になって遊ぶ姿を事例としてあげる

3 質の高い幼児教育をめざして

もう少し柔らかい表現で

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われるととても重要な時期です。

0歳児から就学するまでの乳幼児期の子どもの成長は、生涯の中でも最も著しく、一人一人進むペースは違い、特性も違います。

だからこそ、乳幼児期の発達を十分に理解し、個人差に応じ、年齢に応じた教育を大切にします。

そして、伊丹市は、就学前施設全体で、保護者や地域の方とともに、質の高い幼児教育を目指します。

質の高い幼児教育とは何でしょうか。

立派なことができるようになること、難しいことができるようになることではなく、一人一人の子どもが大切にされ、「愛情」、「自然」、「ことば」を柱とした幼児教育を充実することであり、次のことを丁寧に行っていきます。

(1) 豊かな遊びと体験の充実

① 豊かな遊びの充実のために

- 一人一人の興味・関心や発達に応じた遊びの環境
- 遊びながら物の扱い方や特性、性質や仕組みに興味や関心をもてるような素材や道具など環境の充実
- 自分なりに目的を持ち、遊びをより楽しく、面白くするための工夫や試行錯誤、我慢強く取り組むことができるような支援
- 体を思い切り動かし、その心地よさや楽しさを味わえるような遊びとの出会い
- 友達とつながり、遊びの中で困った時にはアイデアを出し合いながら、遊びを広げたり、時には友達と意見がぶつかり我慢をしたり、集団の中でルールをつくったりできるような遊びとの出会い

② 豊かな体験の充実のために

- 五感（視覚、触覚、聴覚、嗅覚、味覚）をふんだんに使う体験の充実
- 身近な四季折々の自然（動植物、水、砂、土、風、空など）に触れる体験といつでも触れることができる環境の充実
- 発達や年齢に応じた絵本や物語がいつでも身近にあり、大人の温かな語り掛けに触れたりできるような豊かな言葉環境の充実

(2) 幼児教育から小学校教育への接続

幼児期の学びは、遊びを通して総合的に育んでいくもので、小学校以降の学びにつなげていかなければなりません。そのためには、幼児教育では、幼児期の学びが小学校教育においてどのように育まれていくのか、小学校教育では、幼児期には何が育ち、どのような経験をしてきたのかということ、相互に知り、理解することが必要です。

- ①各園のカリキュラムを基本としながら、幼児教育カリキュラムの共有
- ②小学校教職員との合同研修の充実
- ③小学校ブロックや拠点園を中心に、地域の就学前施設と小学校の関係者等との情報交換会の開催

小学校との一層の接続・連携を図る仕組みづくりを行います。

(3) 一人一人の発達に応じた個別支援の充実

一人一人の子どもが、生活の中での困難を改善し、安心して遊び、仲間とふれあい、つながり、持てる力を高め、自信を持つことが大切です。

- ①就学前施設において、子ども自身が友達のよさを知ったり、自分と友達との違いに気づいたりしながら多様性を認め合える仲間づくりの推進
- ②一人一人の発達の特性の理解と個別支援の充実
- ③拠点園、幼児教育センター、関係機関との連携を図りながら、保護者の支援と保育者の専門性の向上

(4) 保育者の資質向上

- ①「遊びを通した学び」を読み取り、次につなぐ
 - ・ これまでも、幼児教育では「遊びを通した学び」を実践してきました。今後は、幼児教育の重要性や「幼児は遊びや実体験を通して学ぶ」ということを異校種、保護者、地域などに知ってもらうため、保育者は説明できることが必要です。
 - ・ そのためには、幼児の遊ぶ姿から何を学んだのかということ、保育者自身が分析し、周りに発信できること、そして翌日の遊びにつなぎ、幼児の遊びに広がりや深さを持たせることが大切です。
- ②研修・研究の充実
 - ・ 各園の実態に応じた研修・研究を推進するとともに、幼児教育センターや拠点園において、公立や私立、施設の種別を超えて共に学んでいきます。

(5) 保護者支援

①乳幼児期の発達やその重要性について

各園において、子どもの発達の道筋、基本的な生活習慣を身に付けること、遊びや体験を通して学ぶことなどの乳幼児期の特性とその重要性を発信していき、保護者が安心して子育てに向かえるような支援が必要です。

また、0～2歳児の子育てについては、保育所や認定こども園等で情報発信をしたり、時には親子で訪れ、他の子どもの様子を見たりすることも、子育てにおいて重要な気づきになります。子育てが楽しいと思える場面に出会えるよう支援をします。

②保護者が学べる場

各園での懇談や研修会をはじめ、幼児教育センターや拠点園などにおいて、保護者が子育てに関する情報を得たり、保護者同士がつながり、共に学べる場をつくります。

③安心して相談できる場

各園において、保護者の子育て不安や悩みを聞き、共に子育てをしながら、安心して相談できる場をつくります。

(6) 地域とのつながり

地域においては、様々な行事が四季折々行われており、子どもたちの生活に彩りと楽しみを与えていただいています。

また、就学前の親子遊びの場を設けていただいております、子育ての不安の解消や、ご近所づきあいのきっかけづくりにもなっており、温かいまなざしで親子を見守っていただいています。

子どもたちにとって地域とは、後には、子どもたちが大きくなり、まちづくりの一端を担うことを見据え、地域の一員として育つ場であり、様々な大人に出会う機会は子どもの体験を豊かにします。

今後は、幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設、家庭、そして地域と社会総がかりで子どもを育てていきます。

。

參考資料

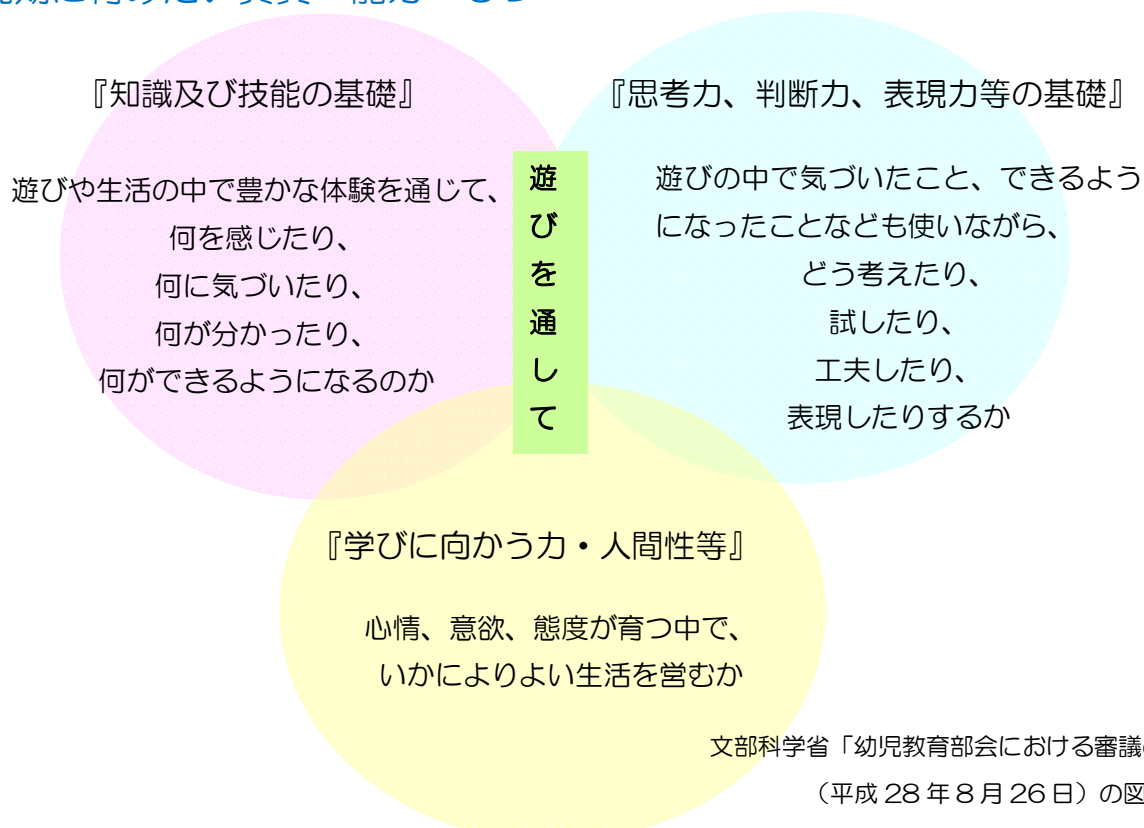
(1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成30年施行）

幼児期に育みたい資質・能力3つと幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10

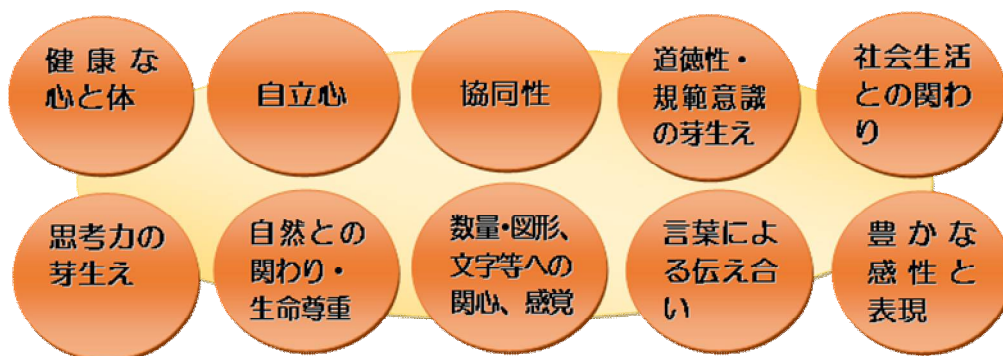
幼児教育・保育における国の指針（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園）が改訂され、平成30年から施行されます。

幼稚園、保育所、認定こども園とどの施設においても、幼児期に育みたい資質・能力として3つ、そして幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として10の姿が共通して示されました。

幼児期に育みたい資質・能力 3つ



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10こ



文部科学省「幼児教育部会における審議のとりまとめ」
(平成28年8月26日)の図

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を通して、具体的にどのような活動で、何を知ったり、気づいたりしながら学ぶのでしょうか。

健康な心と体

- 自分がやりたいこと、没頭できる遊びをすることで、心も体も十分に働かせ、充実感をもつことができます。
- また、遊んだあとは手を洗う、暑くなったら上着を脱ぐなど、生活の中で繰り返し行うことで、「次は何をするのか」、「なぜ」するのかといったことを知り、生活の仕方を知ったり、見通しを持ったりするようになります。

自立心

- 子どもは身近な環境に関わりながら遊びを見つけます。遊びながら、どうしたらうまくいくのか、自分は何をしなければいけないのか、目的を達成するために、考えたり、工夫したりします。
- 時には、うまくいかずに嫌になるときも、諦めずに頑張ることで、達成感を味わい、自信をもつようになります。

協同性

- 友達と関わる中で、刺激を受けたり時には憧れの気持ちを持ったりしながら、難しいことにも挑戦していくようになります。
- 遊びながら、友達と気持ちや考えを共有し、時には相手に譲ったり、譲ってもらったりしながら、共通の目的に向かって協力することの楽しさを実感していきます。

道徳性・規範意識の芽生え

- 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かっていくようになります。
- 互いに自分の思いを主張して衝突することもありますが、それでも友達と一緒に遊びたいときは「折り合いをつける」という体験をします。
- そのような経験を経ながら、ルールを理解したり、その必要性に気づいたり、自分の気持ちを調整したり、人への思いやりの気持ちを持つようになります。

社会生活との 関わり

- 家族や地域の人など、人とふれあう中で、人との様々なかかわり方に気づきます。
- 公園や地域の公共施設などに出かけ、自分で体験しながら、公共の場所や施設を大切に使うことも覚えます。
- 生活の中で、遊びや生活に必要な情報を、インターネットなどで取り入れ、情報を伝え会ったり、活用したりするなどして、社会とのつながりを意識するようになります。

思考力の芽生え

- 身近な環境に関わる中で、不思議なことやおもしろいことに会い、好奇心を感じて探究するようになります。なぜ？どうして？と自分で調べたり試したりしながら、物事についてよく考えるようになります。
- 友達の様々な考えに触れる中で、自分とは違う考え方に気づき、考え直したり、友達と一緒に考えたりします。自分の考えをよりよいものにするために、考えたり試したり、友達と議論したりなど、そのプロセスに学びがあります。

自然との関わり・ 生命尊重

- 子どもが会える環境には、人工物と自然物がありますが、自然物は一つとして同じものはなく、匂い、感触など子どもの好奇心を掻き立てます。
- 身近な動植物に触れ、接し方を知り、考え、愛着をもち、命あるものとしていたわり、大切にすることができるようになります。

数量や図形、標識や文字 などの関心・感覚

- 遊びや生活の中で、数や図形、標識や文字に触れ、3～4歳くらいになると、それらを使うようになります。
- 文字には一つ一つ形が異なることに気づき、文字が分かったり、読み方を知ったりします。
- 文字や数などを分かる喜びや使う楽しさから、その必要性を感じ、興味や関心、感覚をもつようになります。

言葉による伝え合い

○言葉は、子どもが自分の気持ちを伝えたり、大人言葉を聞いたり、また絵本や物語の言葉に触れたりすることで育っていきます。

日々の生活の中で、言葉に触れ、刺激を受け、様々な場面や活動の中で、意味と表現をセットにして身に付けていき、言葉による伝え合いを楽しむようになります。

豊かな感性と表現

○美しいものや優れたもの、心を動かす出来事などに出会ったとき、そこから何かを感じとる心を「感性」と言います。様々な思いや感情をいろいろなものを使って表すことを「表現」と言います。

○生活の中で、喜びや感動、驚きなどを味わうことで、子どもの心は動き、表現したくなります。その表現方法は、身振りで表したり、絵を描いたり、何かを作ったり・・・。大事なことは、上手に表現することではなく、自分なりに表現することを楽しむことです。

そして、まわりの大人は温かく受け止めることです。

(2) 伊丹市の現状（人口・基礎児童数）

本市の人口は微増傾向であるものの、基礎児童数は、ここ数年では平成24年（2012年）の11,965人をピークとし、以降、減少傾向にあります。（表①）

基礎児童数の推移

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
0歳	1,941	1,847	1,873	1,714	1,739	1,686	1,661	1,636	1,611	1,587	1,563	1,540
1歳	1,993	1,964	1,895	1,900	1,745	1,761	1,678	1,653	1,636	1,611	1,587	1,563
2歳	2,036	1,951	1,954	1,846	1,870	1,753	1,752	1,670	1,653	1,636	1,611	1,587
小計	5,970	5,762	5,722	5,460	5,354	5,200	5,091	4,959	4,900	4,834	4,761	4,690
3歳	2,015	2,001	1,936	1,930	1,818	1,846	1,744	1,743	1,670	1,653	1,636	1,611
4歳	2,057	1,999	1,980	1,909	1,915	1,800	1,837	1,735	1,743	1,670	1,653	1,636
5歳	1,923	2,021	1,941	1,949	1,923	1,908	1,791	1,828	1,735	1,743	1,670	1,653
小計	5,995	6,021	5,857	5,788	5,656	5,554	5,372	5,306	5,148	5,066	4,959	4,900
計	11,965	11,783	11,579	11,248	11,010	10,754	10,463	10,265	10,048	9,900	9,720	9,590
	3～5歳児の2017比較 (人)						△ 182	△ 248	△ 406	△ 488	△ 595	△ 654
	3～5歳児の2017比較 (%)						96.7	95.5	92.7	91.2	89.3	88.2

※H29(2017)までは、各年3月31日住民基本台帳登録人口

※H30(2018)以降は、事務局試算

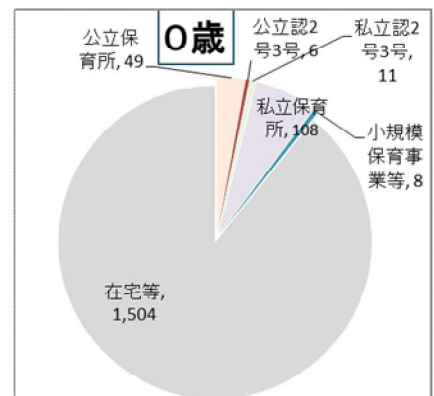
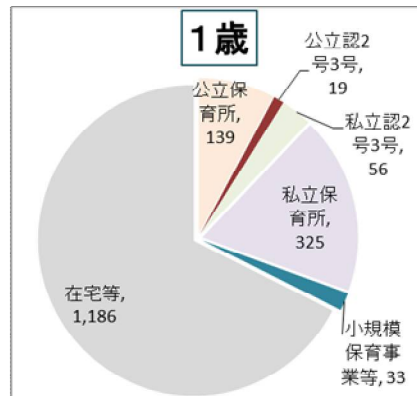
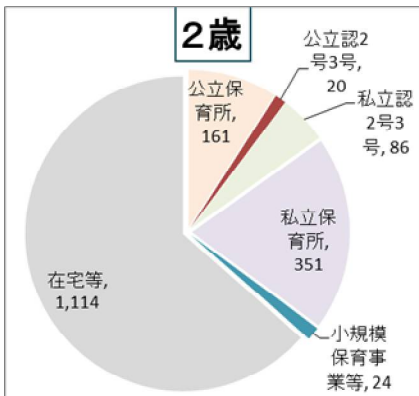
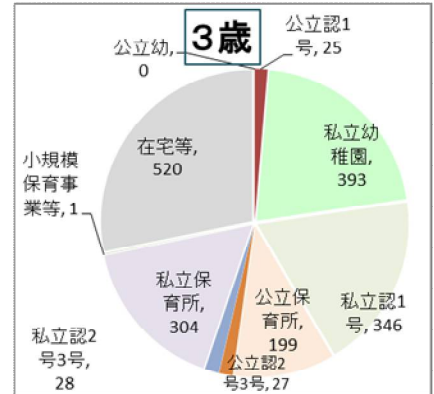
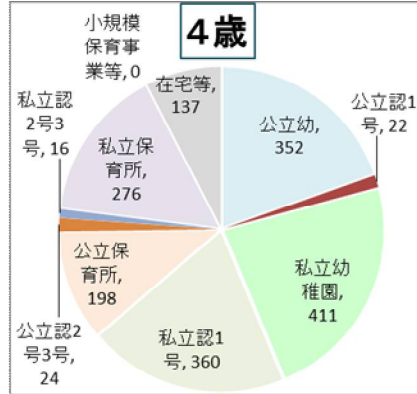
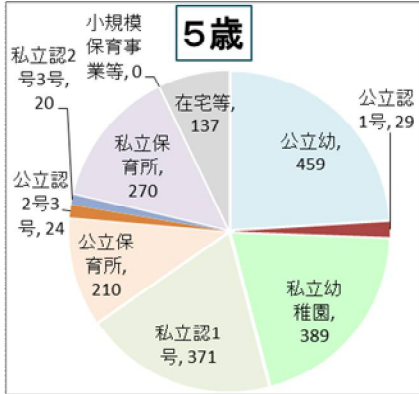
・出生数(0歳児人口): 毎年前年比 98.5%とした

・年次進行: 2019(H31)までは毎年前年比 99.5%、2020(H32)以降は 100%とした

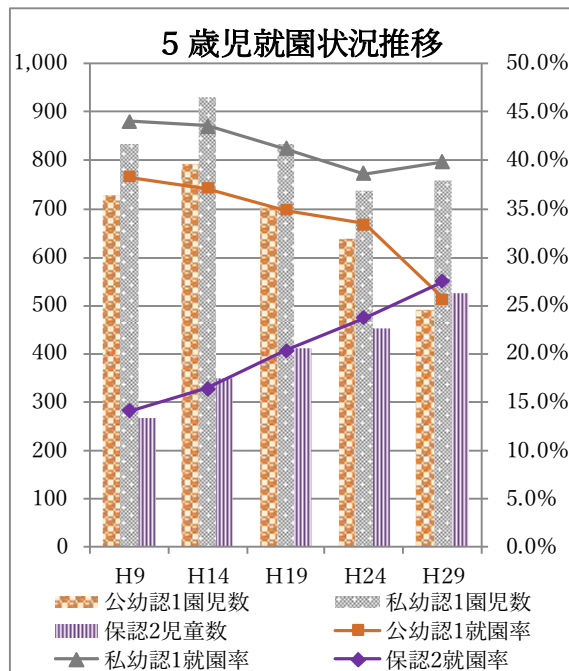
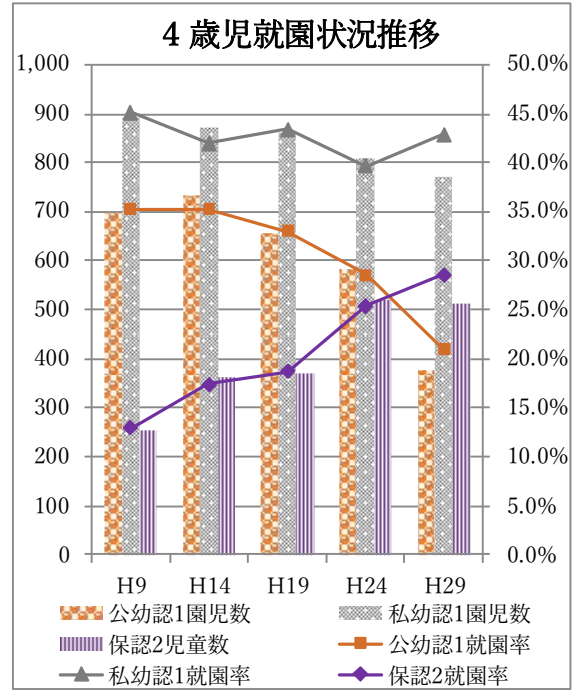
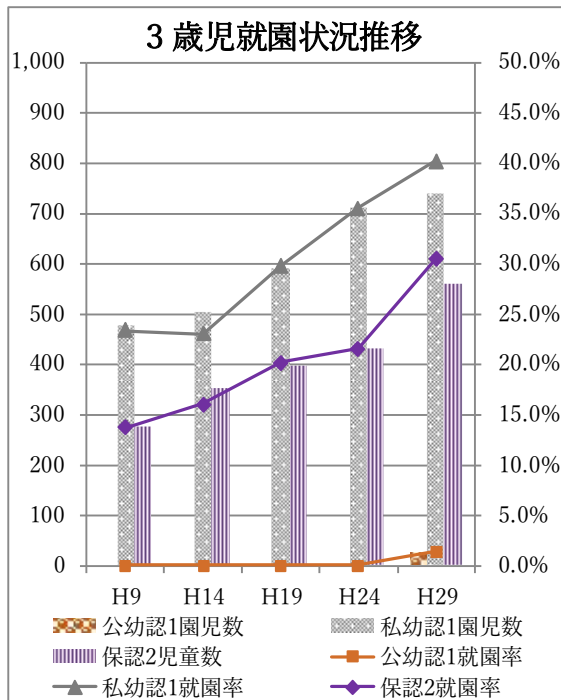
(年齢が1歳上がったときの人口増減。H29の0～4歳児がH30に1～5歳になったときの人口増減)

(3) 乳幼児の保育状況

就学前施設利用状況（平成29年度）



3～5歳児における就学前施設就園状況の推移



(4) 幼児教育ビジョンの策定趣旨と経過

社会の変化は加速度を増し、予測困難なこれからの時代を生き抜いていく子どもたちには、変化を前向きに受け止め、未来を切り開いていく資質や能力が求められます。

また近年、幼児期に忍耐力や自制心、自尊心、協調性といった非認知的能力を養うことが、その後の人生を大きく左右するといった研究も示され、世界的に幼児教育の重要性への認識が高まっています。

このような中、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、すべての就学前施設において、同様の教育・保育の質が担保されるとともに、小学校教育との接続についても重視され、平成30年度から施行されます。

本市におきましては設置者を問わず、就学前の教育・保育に携わる幼稚園、保育所、認定こども園、そして、家庭や地域住民が一体となって、豊かな自然や遊びを通して、幼児期にあるすべての子どもたちが健やかに成長できるよう環境を整えていくことが重要と認識しています。

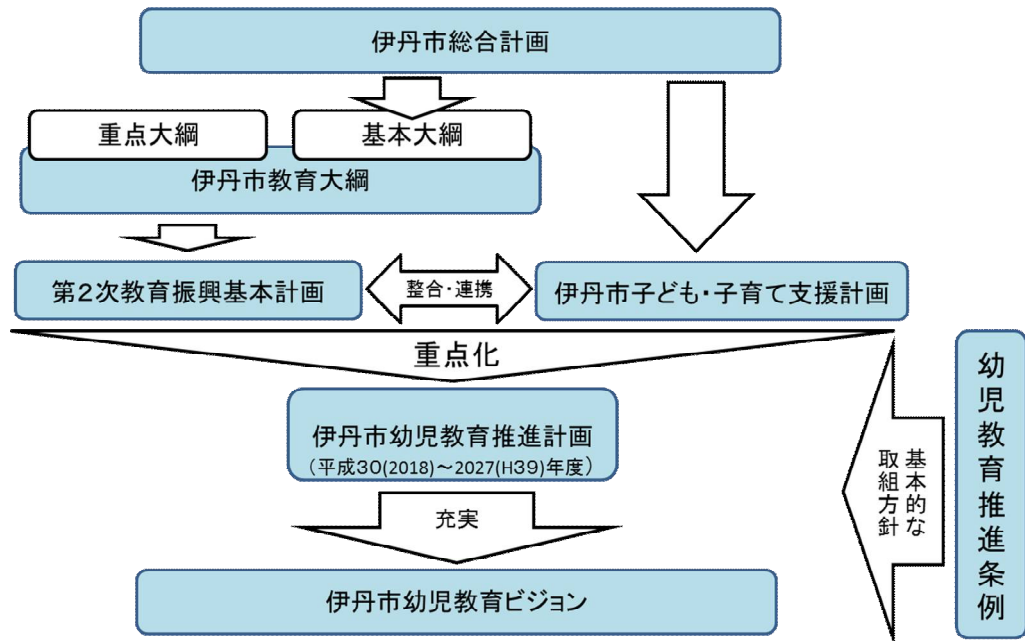
新幼稚園教育要領等に示す「幼児教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、本市の自然や文化、市民力などのポテンシャルをいかしながら、伊丹で育った子どもとしてのアイデンティティを育んでいきたいと考えています。

これらのことから、伊丹市としての幼児教育理念と育てたい子ども像等について定める幼児教育ビジョンを策定いたします。

伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会実施報告

回数	日付	場所	内容
第1回	9月12日(火)	市役所3階議員総会室	「幼児期の子どもや取り巻く環境について」 ・現状と課題
第2回	10月29日(日)	市役所3階議員総会室	「伊丹市における幼児教育について」 ・基本理念、育てたい子ども像について ・伊丹のよさを活かした教育とは
第3回	12月22日(金)	中央公民館大集会室	「伊丹市における幼児教育について」 ・育てたい子ども像について
第4回	2月20日(火)	総合教育センター 多目的室	「伊丹市幼児教育ビジョン」(素案) ・育てたい子ども像と育てたい力について ・素案について
第5回	2月後半	書面開催	「伊丹市幼児教育ビジョン」(素案)
第6回	3月前半	書面開催	「伊丹市幼児教育ビジョン」(素案)
第7回	3月20日(火)	教育長室	「伊丹市幼児教育ビジョン」答申受領

(5) 幼児教育ビジョンの位置づけと計画期間



計画期間は「伊丹市総合計画（第5次）」及び「伊丹市教育大綱」と方針の整合を図り策定するため、期間は、平成30年度（2018年度）から2020年度（平成32年度）までとし、この3年間で市民の皆さんへの説明・普及を図り、2020年度（平成32年度）にビジョンの充実を図るための見直しを行っていきます。

(6) 伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会 委員名簿

(敬称略)

区分	氏名	選出団体
学識経験者	いづはら だい 出原 天	園田学園女子大学短期大学部
	おおがた みか 大方 美香	大阪総合保育大学児童保育学部
	しめだ しんいちろう 卜田 真一郎	常磐会短期大学幼児教育学科
	とみおか りょうしゅう 富岡 暁秀	大谷大学短期大学部幼児教育保育科
関係団体を代表する者	いちかわ いくお 市川 伊久雄	伊丹市自治会連合会
	いとう ぶんご 伊藤 文吾	伊丹市PTA連合会
	おおにし けいいち 大西 慶一	私立保育所長代表 心音つばさ保育園
	さえき としこ 佐伯 聰子	伊丹市私立幼稚園連合会 学校法人西伊丹学園 西伊丹幼稚園
子どもの保護者	あが まさる 阿嘉 優	公募委員
	ふじもと みわ 藤本 美和	公募委員
市民	ば でん みどり 馬殿 翠	公募委員
関係行政機関の職員	たにくち みすず 谷口 美鈴	伊丹市立施設長会 伊丹市中央保育所
	はやし たかひろ 林 隆浩	小学校長会 伊丹市立稲野小学校
	ほそかわ てるみ 細川 照美	公立幼稚園長会 伊丹市立こうのいけ幼稚園

